校長室だより～燦燦～ №５９４

東ロボくん

2022.7.29

野田中学校では、昨年度からリーディングスキルを研究対象として取り上げ、授業改善に取り組んできた。リーディングスキルとは、汎用的読解力である。この道の第一人者は数学者の新井紀子先生である。

新井先生は、国立情報学研究所で２０１１年から「東ロボくんプロジェクト」を進めてきた。東ロボくんとは、「ロボットは東大に入れるか」において研究・開発が進められている人工知能の名称である。

２０２１年度に東京大学に合格できるだけの能力を身につけることを目標としてきた。２０１５年に進研模試で偏差値５７.８をマークするところまで成績を上げてきた。しかし、東大合格に必要となる読解力に問題があり、ビッグデータと深層学習を利用した統計的学習という現在のＡＩ理論では、これ以上の成績向上は不可能となった。結局、東大合格は不可能と判断され、開発は凍結された。

東ロボくんの開発過程で、現在のＡＩは検索による膨大な知識はあっても文章の読解力が致命的になく、ＡＩは意味を理解できないとなった。プロジェクトリーダーの新井紀子先生いわく、「知識に比べ幼稚な知性」という、現在のＡＩの課題が明らかになった。

しかし、文章の読解力が致命的にないはずの東ロボくんが、５０万人いる全受験生の上位２０％に入るＭＡＲＣＨ合格レベルという、そこそこの成績を収めた。東ロボくんは東大は無理でもＭＡＲＣＨ程度なら入学できるとなった。

そこから、日本の高校生の読解力が危機的状況にあることが明らかになった。そこで、新井紀子先生は高校生の読解力を高める研究に移行し、２０１６年より国立情報学研究所の主導で行われる中高生の読解力を問うプロジェクトである「リーディングスキルテスト」につながっていく。リーディングスキルテストとは、汎用的読解力のうち、２００字程度の短文の読解力（汎用的基礎読解力）を測るものである。暗記した知識を問うものではない。

例えば、以下のような問題である。

以下の文を読みなさい。

火星には、生命が存在する可能性がある。かつて大量の水があった証拠が見つかっており、
現在でも地下には水がある可能性がある。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを１つ選びなさい。

かつて大量の水があった証拠が見つかっているのは（　　）である。

○ 火星　○ 可能性　○ 地下　○ 生命

何らむずかしくはないと感じることだろう。だが、子どもたちは思いの外できない。そういった事実が明らかになった。そこから、リーディングスキルの視点から授業を改善しなければならないという動きが始まった。

東ロボくんは、東大に入るというミッションはクリアできなかったが、それよりも大切なことを我々に教えてくれたように思う。東ロボくん、ありがとう。